

# 外部表彰の受賞 -土木学会賞、プレストレストコンクリート工学会賞-

2026年5月27日  
 中日本高速道路株式会社  
 定例記者会見 資料4

○ NEXCO中日本が行っている建設事業および保全・サービス事業において、公益社団法人土木学会の「令和7年度土木学会賞(技術賞 I グループ、田中賞作品部門(新設))」及び公益社団法人プレストレストコンクリート工学会の「令和7年度プレストレストコンクリート工学会賞 作品賞」を以下のとおり受賞

## 【土木学会】

表彰名	受賞日	受賞内容	受賞者
技術賞 I グループ	R8.5.18	東海北陸自動車道 真木トンネル Ⅱ期線トンネルのICT掘削管理と出来形デジタル管理による山岳トンネルDX化	中日本高速道路(株)金沢支社高岡工 事事務所, 清水建設(株)
技術賞 I グループ	R8.5.18	北陸自動車道 新手取川橋 自然環境に配慮した空中橋梁架替え技術	JFEエンジニアリング(株)・ピーエス・コ ンストラクション(株)JV, 中日本高速道 路(株) 金沢支社
田中賞 作品部門(新設)	R8.5.18	新東名高速道路 新皆瀬川橋 波形鋼板ウェブを架設材とした新しい架設工法	中日本高速道路(株)東京支社, (株)建 設技術研究所, 三井住友建設(株)・大 日本土木(株)・(株)フジタJV

## 【プレストレストコンクリート工学会】

表彰名	受賞日	受賞内容	受賞者
プレストレストコンクリ ート工学会賞 作品賞	R8.4.14	新東名高速道路 新皆瀬川橋 波形鋼板ウェブを架設材とした新しい架設工法	中日本高速道路(株)東京支社, 三井 住友建設(株)・大日本土木(株)・(株)フ ジタJV

# 外部表彰の受賞 -土木学会賞、プレストレストコンクリート工学会賞-

## 【土木学会賞 技術賞< I グループ>】

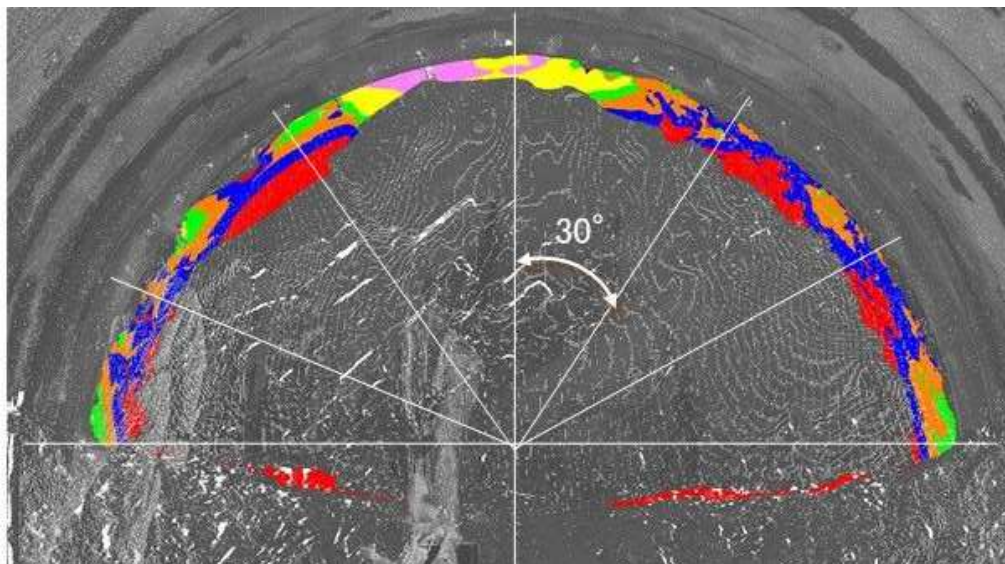
■(東海北陸自動車道 真木トンネル工事)Ⅱ期線トンネルのICT掘削管理と出来形デジタル管理による山岳トンネルDX化

### [工事概要]

✓ 東海北陸自動車道の4車線化事業(Ⅱ期線)として、延長1578mのトンネルを掘削するもの。

### [技術の特徴(受賞のポイント)]

- 供用中のⅠ期線トンネルの安全性確保という重要課題に対し、DXを活用して安全確保を達成するとともにⅡ期線トンネルの高品質・安定性確保を両立。
- 山岳トンネル施工におけるDXとして、①ICT掘削管理による掘削面の地山性状の数値化、②掘削面等の形状のデジタル化によるリアルタイム計測、③ICT活用自動化施工による施工のばらつき抑制を実施。



《Digital出来形測量結果》



《発破自動設計施工システム》

# 外部表彰の受賞 -土木学会賞、プレストレストコンクリート工学会賞-

## 【土木学会賞 技術賞< Iグループ >】

### ■(北陸自動車道 新手取川橋)自然環境に配慮した空中橋梁架け替え技術

#### [工事概要]

✓ 高速道路リニューアルプロジェクト※1の一環として、老朽化した北陸自動車道の手取川橋を新設桁に架け替えるもの。

#### ※1 高速道路リニューアルプロジェクト

最新の技術を用いて構造物を補修・補強し、建設当初と同等またはそれ以上の性能や機能を回復することで高速道路をこれからも長く健全に保つためのプロジェクト

#### [技術の特徴(受賞ポイント)]

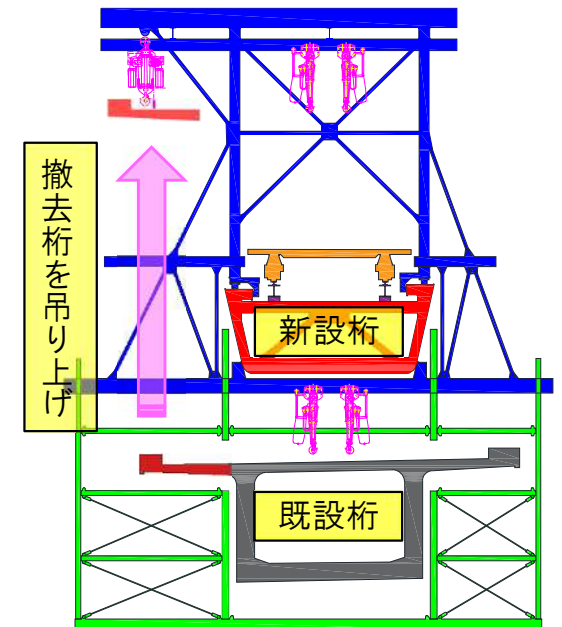
- 砂浜に生息する希少生物に影響を与えないために、従来の橋桁下(砂浜)からの大型クレーンによる撤去作業を不要とする新たな撤去工法を開発。
- この工法は、新設桁を既設桁の上に構築し、撤去の際の支持材として活用することで、仮設フレームによる吊り上げ方式にて全ての撤去作業を空中で実施することを実現。



《工事全景(河川部)》



《工事全景(砂浜部)》



《仮設フレームによる撤去作業》 3

# 外部表彰の受賞 -土木学会賞、プレストレストコンクリート工学会賞-

## 【土木学会賞 田中賞<作品部門・新設>・プレストレストコンクリート工学会賞<作品賞>】

### ■(新東名高速道路 新皆瀬川橋)波形鋼板ウェブを架設材とした新しい架設工法

#### [工事概要]

✓ 新東名高速道路の建設事業として、橋長352.0m(上り線)、398.0m(下り線)の波形鋼板ウェブ※2箱桁橋を架設するもの。

#### ※2 波形鋼板ウェブ

箱型の橋桁の側面部分(ウェブ)を従来のコンクリートから波形の鋼板に置き換えた構造

#### [技術の特徴(受賞ポイント)]

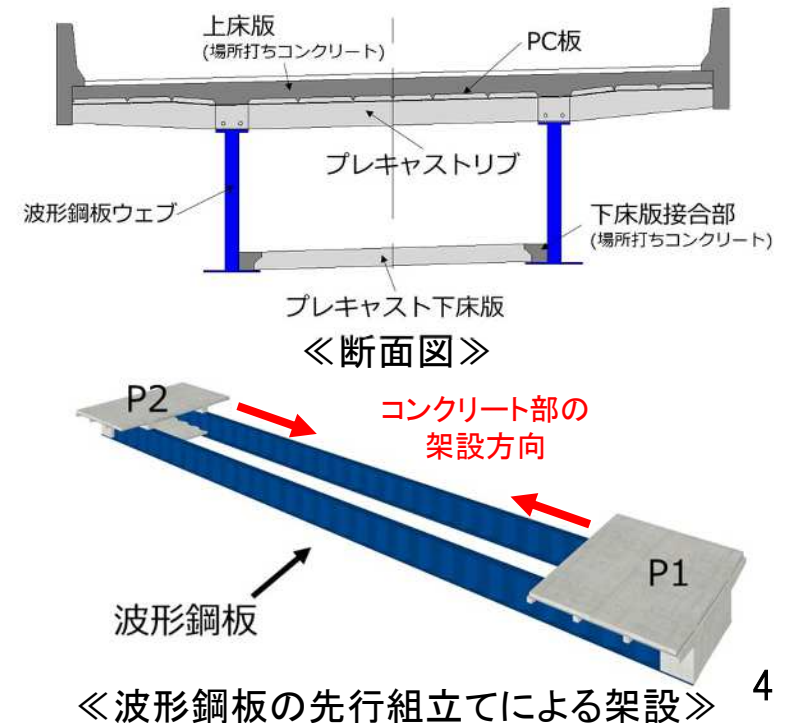
- 急峻かつ脆弱な地盤条件下で、地形改変を最小限とするために、従来は施工時に必要としていた橋桁を支える大規模な仮設支持材を不要とする新たな架設工法を開発。
- この工法は、波形鋼板ウェブ※2を先行して組み立て、その後の全ての施工を空中で行うことで、地形改変の最小化を実現。
- 更に、従来は箱桁下面のコンクリート等は現場で打込んでいたが、プレキャスト部材とすることで現場作業の省力化を実現。



《工事全景》



《桁下から》



# 外部表彰の受賞 -土木学会賞、プレストレストコンクリート工学会賞-



## 【土木学会賞】

土木学会賞は、功労賞、技術賞、環境賞、研究業績賞、論文賞、論文奨励賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、技術功労賞の14の賞に分類されています。

### 技術賞 Iグループ

土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められるインフラの計画、設計、施工または運用やメンテナンス等の画期的な個別技術(いわゆる「ハード技術」)のみならず、情報システム、マネジメント手法、ビジネスモデル、制度の導入等の「ソフト技術」についても対象とする)

### 田中賞

「土木学会 田中賞」昭和41年度(1966年度)より、橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に対して授与されている学会賞です。

橋梁に関する技術の進歩、発展や事業の形成・実施、調査、計画、設計、製作・施工、維持管理等における実践等において、顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする「業績部門」、土木学会刊行物に発表され、計画、設計、製作・施工、維持管理、利活用、考案、歴史・文化、普及・啓発などに関連して、橋梁工学の発展に大きく貢献したと認められる論文、報告等を対象とする「論文部門」、新設あるいは既設の橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧などにおいて特色を有する優れた作品を対象とする「作品部門」、橋梁またはそれに類する構造物に適用され、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧、解体、撤去などの面において特色を有する優れた技術または革新的な技術で、橋梁工学の発展に寄与するものを対象とする「技術部門」の4つの部門があります。

(出典:公益社団法人 土木学会 ホームページ)

## 【プレストレストコンクリート工学会賞】

プレストレストコンクリート工学会賞は、論文賞、作品賞、技術開発賞、施工技術賞の4つの賞に分類されています。

### 作品賞

プレストレストコンクリート構造物の新設・改築・改修で、計画、設計、施工、あるいは美観、さらに改築・改修においては機能・性能の回復・向上などの面においてすぐれた特色を有し、プレストレストコンクリート技術の発展または普及に顕著な貢献をしたと認められる作品を対象とします。作品賞には、土木部門、建築部門、および改築・改修部門の3部門を設けています。

(出典:公益社団法人プレストレストコンクリート工学会 ホームページ)